

心華やぐ「つるし雛」 高木ミヨ子さんの手仕事にうつとり

冬の手仕事として 手芸を楽しんでいる 高木ミヨ子さん（大倉）。長男の妻・久子さんの発案で昨年からつるし雛を自宅の一室に飾っています。つるし雛との出会いは震災による避難がきっかけでした。当時、久子さんは飯館村社会福祉協議会のスタッフで、事務所が避難していた福島市飯野町で盛んなつるし雛づくりの講座を仮設住宅などで開いていて、相馬大野台仮設住宅に入居していたミヨ子さんも、そうした講座を通してつるし雛をつくり始めました。もともとデザインや手芸が好きだったミヨ子さんは、仮設住宅の仲間と、手づくりのつるし雛を支援のお礼に贈ることもありました。

帰村後も畑仕事に休みに入る冬季に、つるし雛の制作を続けてきました。今年は2月中旬から10数点を部屋に飾り、知人や友人にお披露目をして、交流を楽しんでいます。



ミヨ子さん(右)は端切れや古い着物を材料にさまざまなデザインのつるし雛を制作しています。「しまっておくのは勿体ないから飾りましょう」と提案した久子さん(左)が桃の節句に合わせたディスプレイを担当しています。



つるし雛と一緒にミヨ子さんの作品が飾られています。右は糸の装飾が美しい手鞠（てまり）。左は木目込み人形。

ありがとう、じゃがいも



2月20日、村出身の災害救助犬じゃがいもが天に旅立ちました。

震災直後に村で生まれ、飼い主の避難に伴いNPO法人日本動物介護センター（岐阜市）に預けられた雑種犬のじゃがいも。約5年間の訓練と11回の挑戦で災害救助犬の試験に合格し、そのエピソードは小学生の道徳の教科書にも取り上げられました。また、飯館村の「わんだフルまでい大使」を務め、センターの皆さんの尽力でたびたび村に帰り村民との交流を続けました。

じゃがいも、今まで本当にありがとう。

2025年飯館村10大NEWS

YouTube 飯館村公式チャンネルで公開します。飯館村の1年間を一緒に振り返りましょう！

公開日は村HPでお知らせします。

脚本もMCも撮影も編集も職員が担当した手づくりの動画です。どうぞお楽しみください！

問 村づくり推進課 ☎0244-42-1613

〈編集後記〉

芸能発表祭や子ども議会、節分の催しなどに取材で伺う中で、村民の皆様や子ども達のたくさん「笑顔」を見ることができました。人が笑っている様子を見ると、なんだかこっちまでうれしくなってきました。「きっとこの世界の共通言語は、英語じゃなくて笑顔だと思っ」私が好きな歌の中にこんな歌詞が出てきます。

笑顔が笑顔を呼んで、皆様にたくさんの福が訪れますように。(巻野)

今号もさまざまな場所でたくさんの方にお話になりました。お話から学ぶことが多くて、見えていることはほんの一面なのだと思いましたが、皆さんの深い思いややさしさに触れ、どの場面も本当に温かく飯館村がますます輝いて見えました。(星)